

平成5年度厚生省心身障害研究

「小児の心身障害予防・治療システムに関する研究」 (分担研究：小児の療養環境のあり方に関する研究)

分担研究総括報告書

分担研究者 東京都立母子保健院乳児養育科部長
帆足 英一

要約：本研究は初年度の研究として、入院児のQOLの向上に関わる基礎調査を行うとともに、入院児に対する保母職の業務の目的、実態についての具体的な事例として聖マリア病院新生児センター並びに藤本小児病院での実態について調査した結果を報告する。

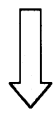
見出し語：病棟保母 小児医療 ボランティア 心理 院内教育

研究方法：小児科並びに小児外科を設置している全国の医療機関を対象として、入院児のQOLに関わる基礎的な実態調査を行った。

結果：1,915施設から回答が得られた。小児病棟が独立しているのは20.4%、混合病棟が73.0%、家族の付添いを認めない医療施設は8.4%、入院児のために食堂、プレイルーム等の何らかの専用室が整備されている医療施設は65.7%、心理スタッフが関与している医療施設は22.5%、入院児の学校教育に配慮している医療施設は19.4%、ボランティアを導入している医療施設は16.3%、病棟内保母職を導入している医療施設は8.3%という実態であった。

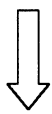
考察：少産少子化時代の今日、小児に関わる医療保険制度上の不採算性をも反映して、小児医療の現場においては独立した病棟を維持することが困難になりつつあり、他科との混合病棟化が進展しつつある。そのような中で、入院児のQOLの改善に向けた医療環境の整備は、重要な課題となっている。小児の療養環境の整備に当たっては看護はもとより保育・教育を含めた包括的な観点から問題を提起する必要がある。

次年度以降、基礎調査の結果を参考に二次調査、特に小児病棟における保母職と看護職の業務分担、療養効果等を中心に院内教育やボランティアの導入問題等について分析する予定である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:本研究は初年度の研究として、入院児の QOL の向上に関わる基礎調査を行うとともに、入院児に対する保母職の業務の目的、実態についての具体的な事例として聖マリア病院新生児センター並びに藤本小児病院での実態について調査した結果を報告する。